

令和3年度県立取手第一高等学校自己評価表

	目指す学校像 ・本校の校訓（至誠・醇厚・自強）を礎に、取一精神「力耕不吾欺（りきこうわれをあざむかず）」の涵養を図りながら、生徒が自ら学び考える力を育み、時代の変化やグローバル社会・高度情報化社会に対応できる能力と豊かな人間性の育成に努める。 ・総合学科の特色を活かした主体的な学びを实践し、教職員の一致協力した学校運営の下、生徒一人一人に誠実に向き合い、その多様な進路希望の実現と明るく活力ある学校づくりを目指す。				
	昨年度の成果と課題 ・総合学科としての特色を活かし、「産業社会と人間」の授業を核として、横断的・総合的な学習指導体制が確立しつつある。また、生徒の選択分野に応じた指導による、家庭学習習慣を確立させることが課題となる。今後は、思考力・判断力・表現力の育成を目指した質の高い授業の展開及び共通テストに対応する教員研修の充実を図る。 ・3年間の段階的・継続的な進路指導体制の構築等により、生徒が希望する多様な進路選択に対応する必要がある。 ・組織的・継続的な指導に、服装髪型指導及び遅刻指導等に力を入れてきた結果、基本的な生活習慣が確立しつつある。心因的な理由による欠席や心の悩みを持つ生徒が増加傾向にある。教育相談体制を充実させ、いじめ等の未然防止・早期発見・早期対応をする必要がある。 ・コロナ禍において様々な行事や部活動が制限された中でも、工夫を凝らして活動している。集団の中での存在感、達成感が得られている。ボランティア活動に参加する生徒が多い。今後は、所属する集団での課題を見つけ、自らが問題解決できるよう生徒の自発的な活動を促し、さらに主体性を伸ばしていく必要がある。 ・教員間のコミュニケーションが活発になったことで、業務の分担や軽減が図られ、効果的に業務をこなそうとする機運が高まっている。会議、委員会等の種類及び開催回数も多く、校務分掌や委員会の再編を一層進める必要がある。	重点項目 1 自ら課題を発見し・設定し、ICT機器を積極的に活用し、解決に必要な知識及び技能を身に付けるための効果的な学習指導方法の確立を図る。 2 総合学科の特色を活かし、生徒の興味関心を軸とした効果的な進路指導方法の工夫・改善を図る。 3 様々な状況に対応できる自己指導能力を育成するとともに、教育相談体制を一層充実させ、いじめ等の未然防止・早期発見早期対応に努める。 4 他者と協働しつつ自己実現を図ろうとする態度を育成する。キャリアパスポートを作成し、自身の変容や成長を自己評価できるようにする。 5 教職員が効率的な働き方を目指し、事務的な仕事量を減らすことによって自己研鑽の時間を増やす。	重点目標 ①積極的にICT機器を活用し、主体的、対話的で深い学びの視点から、思考力・判断力・表現力の育成を目指した質の高い授業を研究し実践する。 ②総合学科の特色を活かした分野別・系列別学習指導の徹底によって学力向上を図り、学習へのモチベーションを高める。 ③生徒自身が自らの学びを振り返る機会を積極的に設ける。 ④3年間の段階的な進路指導体制の構築と、きめ細かな個別面談を充実させる。 ⑤生徒一人一人の希望進路を実現のた、課外・模試等のあり方を検討し、学年の進路指導の見直しを行う。 ⑥基本的な生活習慣の確立を目指しつつ、人権教育や道徳の授業等の活用によって生徒が自分や社会について考える機会をつくる。 ⑦生徒の実態（不登校・特別支援・不応等）に応じた援助についてチームで考え、学年・生徒指導部・教育相談部等関係者の連携を密にして生徒の課題解決を援助する。 ⑧属する集団での課題を見つけ、自らが問題解決できるよう生徒の自発的な活動をサポートする。主体性を持って各種行事に参加させる。 ⑨主体性を持って部活動や学校行事への参加を促し、学校生活の活性化を図る。【部活動加入率 70%】 ⑩キャリアパスポートの作成にあたっては、教職員が対話的に関わり、生徒の個性を伸ばす指導へとつなげる。 ⑪教職員相互のコミュニケーションを積極的に行い、連携協力体制を強化し、教職員一丸となって信頼される学校づくりを目指す。 ⑫自らの業務一つ一つについて、より効果的な方策を検討するとともに、業務の在り方についても見直しする機会を設ける。	達成状況 A B A B B A	
評価項目	具体的目標 教科指導(全体) ・ICT機器を活用した分かりやすい授業の展開。 ・学習習慣の確立、基礎力・応用力の養成、個々の生徒の能力の伸長。 ・自ら課題を発見・設定し、その課題を多様な方法で解決する能力の養成。	具体的方策 総合学科として各分野の目標にそった授業計画を毎時間立案し、その内容を理解させる努力をする。 電子黒板・学習者用端末を活用し、生徒の思考力・判断力・表現力を育成し、主体的に学べるよう授業改善に努める。 学習評価の在り方を見直し、生徒自身が自らの学びを振り返る機会を設ける。 総合学科の特色を活かし、多様な科目を履修することで自己のキャリア形成の一助とする。 面談や観察を通して生徒一人一人を把握し、個々の生徒の能力の健全な成長に努める。	関連項目 ①② ①③ ①③ ②⑩ ⑥⑧	評価 B A B A A	次年度(学期)への主な課題 ・電子黒板や学習端末の活用度は高まり、さらにコロナ禍において、オンライン授業が当たり前前に実施できている。しかし、オンライン授業では、個別指導が難しく、学力差が大きくなる傾向が見られた。自ら学ぶ姿勢を身につけさせることが今後の課題である。 ・担任面談と必要に応じて教科担当面談も実施し、成果が出ている。さらに充実させていく必要がある。
※評価基準	A：大変よくできた。 B：よくできた。 C：やや不十分。 D：不十分				

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連項目	評価	次年度(学期)への主な課題	
教科	国語	分野の目標に沿った授業計画を立案し、副教材やプリント、ICT機器を積極的に活用して国語に関する基礎知識と応用力を身につける。	①②③④	A	・オンライン授業やICT活用等、授業形態の変化に伴い、新たな国語教育のあり方をさらに模索する必要がある。 ・図書館を利用した調べ学習を取り入れ、能動的学習を行わせたい。	
		問題集や課題等を活用し、家庭学習の定着を図る。	①②	B		
		資格検定(漢字検定)の取得者数を昨年度比15%増を目指す。	②	B		
		音読や朗読、暗唱等の読みの徹底を図り、古典の世界に親しめるようにする。	①	A		
		多くの作品を読解し、鑑賞することによって、心豊かな人間の育成を目指す。	①	A		
		作品の鑑賞を通し、多様なものの見方や考え方、生き方を知ることによって豊かな心を育み、進路実現の一助となるようにする。	①②④	A		
	地歴 公民	基礎学力を定着させる。	教材や板書の内容をよく練り、必要な知識の伝達と生徒の理解が深まるように努める。	①		B
			単元や教材の終了時にはその内容に応じたまとめを実施し、事後の指導の徹底を図る。	③		B
		進路に対応した授業を展開する。	学習の中で画像や動画・パワーポイントなどの視聴覚教材を積極的に活用し、多面的な知識の定着を図る。	①		B
	数学	基礎学力の定着及び数学的考え方の涵養	基本計算の反復練習や、生徒同士の教えあい活動を通して基礎学力の定着を図る。	①③		A
			進路希望に合わせた授業展開を継続し、学力に合わせたきめ細かい指導を通して確かな学力を育む。	①②④		A
			生徒個々の学力の伸長に努めると共に、補習や課外を実施するなど学力に応じた個別指導を実施する。	①②		A
家庭学習習慣の定着		数学に対する興味・関心を高められるような授業を展開することはもちろん、進路の意識を授業の中でも育てていくことで、自ら学ぶ意欲を持てるよう働きかける。	①②	A		
		課題を定期的に加え、既習事項の確認と家庭学習の習慣を身に付けさせる。	②③	A		
		定期考査だけでなく、課題テストを定期的実施する。	②③	B		
模擬試験・一般入試に対応した指導		教育課程や受験指導の在り方を教科内で吟味し、3年間を見通した指導のシステムを検討していく。	⑤	B		
		模擬試験や共通テストレベルの問題を積極的に取り入れ、授業・定期テストと模擬試験・入試問題とのギャップを埋められるようにする。	⑤	B		
理科		科学的な事象・現象について関心や探究心を高める。	演示実験等の実施により科学的興味をもたせる。	①②	B	
			身近なものを例に出し、授業内容との関連付けを行う。	②	A	
	観察が困難なもの等については、CGや映像資料を活用する。		①	A		
	科学的に探究する能力と態度を育てる。	観察や実験を積極的にに行い、レポートの考察の方法について指導する。	②	B		
		課題研究などを行い、自ら課題を見つけ探求させる。	③⑧	B		
		授業中の発問を工夫し、思考力を高める。	②③	A		
	大学入試レベルの学力を身につけさせる。	課外を行い、生徒の弱点の克服に努め、入試問題を解くことに慣れさせる。	⑤	B		
		入試問題の研究を行い、出題傾向に関する情報を蓄積し、学習効果の向上に努める。	②⑤	B		
	教員研修や教員相互の授業参観を行い、授業の改善を図り、生徒の実力向上につなげる。	⑩	B			
※評価基準 A:大変よくできた。 B:よくできた。 C:やや不十分。 D:不十分						

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	関連項目	評価	次年度(学期)への 主な課題			
教科	保健 体育	健康に対する意識を向上させる。	健康に対する正しい知識を身に付ける。	①②	A	ICTの効果的な活用により、新しい体育学習の在り方を考えていく必要がある。ICTを授業の中でうまく取り入れることで、スポーツや保健に対する新しい価値観を育てることができると考える。また、コロナ禍においていかに体力を落とさずにいられるかということも課題の一つである。 保健に関しては、現代の保健課題を積極的に取り入れ、授業とリンクさせながら問題解決力を育むなど、新しい授業展開をしていくことを課題としたい。		
			グループ学習を通して価値観を広げる。	①②	B			
			自己実現に向けて、ライフスキルの向上を図る。	①⑥	B			
		体力を向上させる。	新体力テストのデータを活用し、計画的に体力の向上を図る。	①	B			
			体づくり運動や体ほぐしの運動を授業内で効率的に取り入れ、継続して行う。	①	B			
			測定・評価基準を確立し、生徒が目標を持って取り組めるように指導・援助を行う。	①	A			
		自主的・主体的に取り組み活発な雰囲気 で活動するとともに、集団行動のマナー を身につけさせる。	ルールや服装の遵守・準備片付けの協力・大きい声での挨拶の励行等を指導し、積極的に取り組む姿勢を育てる。	①⑥	A			
			声かけなどのコミュニケーションを通して、互いに尊重しあう態度を養う。	①⑥	A			
			体育委員などリーダーシップをとれる生徒を育成し、生徒の自主性を育てる指導をする。	①⑥	A			
			施設・用具を大切に扱う態度を身に付けさせる。	①⑥	A			
		音楽	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じて演奏、表現活動を行う。	さまざまな形態や時代の音楽に関心を持ち、主体的に表現活動をする。	①		A	・音楽の幅広い活動を通し、学んだことを生かして表現したり、作品の特徴を理解しよさや美しさを味わって学習することができた。次年度も様々な分野の音楽と触れ合う機会を設け、生徒の感性を伸ばすような授業展開をしていきたい。
				リズム、旋律や強弱などの形づくっている要素を知覚し、それらが生み出す音楽的效果を感じ、表現の工夫ができるようにする。	①		A	
	音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じて演奏、表現活動を行う。		アンサンブル活動の中で、互いに協力し合い音楽を作り上げる喜びを味わう。	①③	A			
			世界の諸民族や日本の伝統音楽に対する理解を深め、自分なりの視点をもって音楽のよさや美しさを味わう。	①③	B			
	美術	作品制作、鑑賞を通して観察力や創造力を高め、自己の良さや個性を発見する。	鉛筆、絵具などの使い方を覚え、デザインに関する知識、美術表現の基礎を学ぶ。	①	A	・一人一人が自分で考え作品を制作しようとする意欲的に活動していた。次年度も美術表現の基礎を身に付けさせ、生徒の表現の幅を広げていきたい。		
作品を制作、完成することにより創造する楽しさ、達成する喜びを味わわせる。			①	A				
自身でコンセプトを考え、制作を行うことで、自己表現の発見と個性を感じさせる。			③	B				
英語	自発的、継続的学習を目指す。	授業重視の学習指導に加え、予習、復習、週末課題、小テスト等をおとして自ら学ぶ姿勢を養い、継続的な家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図る。	①③	A	各学年の取り組みとして英単語、英文法テストや週末課題等を通して、生徒への学習習慣の確立と基礎学力の定着を図ることができた。さらに英検2級合格レベルの学力の向上、一般入試や共通テストに対応できるより発展的な学力を身につけさせるように、英語科全体で連携協力した学習指導をおこなってきたい。			
	基礎学力の定着からさらに実力の養成を図る。	英検2級合格相当の学力養成を念頭に、授業内容や教材・課題等の構成を工夫・改善し、さらなる実力の養成を図る。	①②	B				
	一般入試での大学進学可能な学力向上を図る。	上位層の伸張を図るため、継続的な課外指導等を含めて3年間を見据えた計画的な指導を組み立て、大学一般入試合格可能な高い学力を養う。	②④⑤	B				
※評価基準 A：大変よくできた。 B：よくできた。 C：やや不十分。 D：不十分								

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連項目	評価	次年度(学期)への主な課題
家庭	意欲を喚起する学習指導・学習環境	生徒の興味・関心を引き出し、知的好奇心を喚起する学習内容を工夫する。	①②	A	・今年度実施できなかった、もしくは規模縮小して実施せざるを得なかった実験・実習を行い、生徒の興味関心を引き出すとともに、科学的な理解が図れるようにする。
		身近な生活課題を取り上げ、主体的に問題解決に取り組める学習展開を工夫する。	③⑧	B	
		積極的にICT機器を活用するなど学習環境を整備し、実習では火気・用具・材料等の取り扱いに注意し事故防止の指導を徹底する。	①③	A	
	科学的な理解と技術の習得	体験的に学びながら生活を科学的にとらえられるように、実験・実習を効果的に行う。	①③	B	
		基礎的・基本的な生活技術を習得できるようにする。	①③	A	
生活の場での実践力の育成	生活の中で学んだことを生かせるよう発展学習を提起したり、課題を出す。	③⑧	A	A	
工業	単位制総合学科高校に適した工業科の教育課程を実現する。	1年次の分野紹介における丁寧な説明と「分野基礎」の実施を通し、専門課程を熟知した上での分野選択を実現するとともに、生徒の適正人数の確保に努める。	②⑤	B	・安全教育の徹底と事故防止に努め、健全な勤労観・倫理観の育成に努める。 ・生徒の適正人数の確保に努める。 ・資格取得の指導体制の継続と充実を図る。 ・老朽化した施設・設備の計画的な充実・更新を図る。 ・基礎基本を重視しつつ、かつ、社会の変化や「新しい生活様式」に対応できるよう実習内容や指導法について検討する。 ・働き方改革により、教員の勤務時間軽減と、各種研修の充実を図る。
		1・2年次の授業で、「工業数理基礎」「工業技術基礎」の内容を補い、基礎力の向上及びものづくり教育を推進する。	①②	B	
	各種資格指導を充実させる。ジュニアマイスター育成に努める。	国家資格「工事担任者」「ボイラー技工士」については授業において積極的な指導を行うとともに課外指導を行う。資格取得率80%以上を目標とする。また、「危険物取扱者乙種第4類」においても適宜課外指導を行い、合格率40%以上を目標とする。	②⑤	B	
	時代の要請に適応した専門知識をもつ高校生を育成する。	ネットワーク技術やロボット・制御技術、及びCAD・CAMなどの先端技術を取り入れた授業と実習を行い、作品や成果にもとづいた進路実現を図る。	②⑤	A	
		レポートやプレゼンテーションの指導を各授業に取り入れ、今日の技術者として必要な表現力を育てる。	①②⑤	A	
		教員の専門性(校外研修等)の向上を図る。	①②	B	
生徒の多様な進路志望に応えるとともに、「ものづくりはひとつづくり」の観点から社会で活躍する技術者の育成に努める。	総合学科の特性を生かし、大学、専門学校、就職のいずれをも視野に入れた指導を行い、生徒の希望進路実現を図る。	②⑤	A		
	将来、社会で活躍できる技術者の育成を念頭に、学力、技能ならびに安全や技術者としての倫理等について継続的な指導を行う。	①②⑤⑦	B		
商業	ビジネス分野に興味・関心をもたせ、自ら学び考える姿勢を育てる。	わかりやすい授業の展開により商業科目に興味を持たせ、自ら学ぶ姿勢を育て確かな知識を身に付けさせる。	①②	B	・授業時間、課外の確保 ・資格取得と進路実現を組づける意識付けの強化
		授業を通して変化する社会に対応する考え方、見方の力をつけさせる。	①②	B	
		社会的責任を担う職業人として、円滑なコミュニケーションを図ることを心がけさせる。倫理観を醸成し、社会の信頼を得てビジネスの諸活動に取り組む人材を育成する。	⑥⑧	B	
	資格指導を充実させ、進路選択の幅を広げる。	グループ学習を取り入れ、主体的かつ協働的に取り組む態度を養う。	③⑧	B	
資格取得を通して実践的な学力を養い、希望進路を実現する。		①④	B		
情報	情報社会に興味や関心をもたせ、自ら学び自ら考える姿勢を育てる。	情報処理に関する基礎的学習を行い、基礎的な知識を身に付けると同時に、情報技術に関する最新のニュースなどを題材として扱い、知識の定着や学習意欲の向上を図る。	①②	B	情報社会に関することは年々変化しており、毎年新しい用語や時事問題を取り入れることが重要である。次年度も引き続き最新情報を取り入れ授業を展開し、生徒の関心・意欲を引き出していきたい。また、プログラミング教育についても時間を確保し行っていきたい。
		文書作成、表計算、プレゼンテーション、情報収集などの実習を行い、情報活用能力の向上を育成したうえで、自ら設定した課題を解決するような題材を扱い、問題解決のための思考力・判断力・表現力を育成する。	①⑧	A	
	効果的にコミュニケーションを行う能力を伸ばし、積極的に情報社会に参加する態度を育てる。	情報社会の影の部分を理解させ、社会における情報モラルの問題や社会問題について考えさせようとして、グループワークなどを通して他者と協力して問題解決するための態度を育てる。	①③⑧	A	

※評価基準 A：大変よくできた。 B：よくできた。 C：やや不十分。 D：不十分

評価項目	具体的目標	具体的方策	関連項目	評価		次年度(学期)への 主な課題
教務	総合学科の特色を活かし、多様な進路希望に対応するための教育課程の編成と運用を行う。	単体制総合学科としての利点を生かし、将来の社会情勢に対応できる能力を身に付けられるような体制を整備する。「教育課程検討委員会」・「年次会」・「教科会」等において研究や検討を深め、教育課程の適切な編成・運用を行う。	②③⑤	B	A	<p>新教育課程に対応した教育活動、生徒管理を実現する。ホームページを充実させ、情報発信の中心として機能させる。</p> <p>職員のICT対応力の向上のため、研修や情報提供を行い、オンライン授業など様々な状況に柔軟に対応できる体制をつくる。</p> <p>校内のネットワークやWi-Fi管理を徹底し、安定した環境を構築する。</p> <p>考査の時間割や特別時間割の公表を余裕を持ってできるよう、部内や職員の協力体制を強化する。</p>
	生徒情報の管理と適正な運用を行う。	教科・年次・担任との連携を深め、欠課時数の調査と指導、成績不振科目の把握に努める。教育支援システム(「教助」)の活用を促進し、システムの有効利用を図り、生徒の学習活動を充実させる。	④⑥⑦	A		
	広報活動の充実を図る。	ホームページ・学校案内(スクールガイド)等を充実させ、様々なメディアや機会を活用して本校の情報を発信していく。学校公開・学校説明会等の更なる充実を図り、より多くの入学志願者の獲得を目指す。	③⑨	B		
	職員の学習指導方法の更なる向上と充実を図る。	授業研究や研修の機会を提供し、タブレットや電子黒板を活用した新しい学習指導法を職員が習得することを目指す。様々な情報収集と提供を積極的に行い、大学入学共通テストや新教育課程等に対応できる指導体制を構築していく。	①④⑤	A		
	生徒の学習活動の充実を図る。	学校行事の精選と活動時間の確保を両立し、授業時数の管理と時間数の確保を行う。特別時間割・考査時間割等の早期の編成と適正な運用を行い、学習指導計画の遂行に寄与する。キャリアパスポートの作成促進と有効活用を図り、生徒の成長を促す。	⑨⑩	B		
	教務部の活動を活性化し教育活動の円滑化を図る。	教務部内の各担当部署の効率的な運営と部署間の連携を更に進める。部員間の協力体制を強化し、システム管理部門の負担軽減を目指す。校内規定や運営手順等の整備を進めるとともに、職員間の連絡・報告を密にし、学校運営の円滑化を図る。	⑧⑪⑫	A		
生徒指導	基本的生活習慣の確立	身だしなみに係る段階的指導を継続的に実施し、頭髪・服装の適正化を図る。	⑥	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 現在の取り組みは維持しつつ、問題点を見出し改善を進める。 生徒指導に対して全教員が共通認識を持ち、生徒に公平な指導をする。 教員主導ではなく、生徒会が中心となり学校運営ができるよう、特別活動部と連携をし活動を進める。
		登下校指導で挨拶の重要性を理解させ、日々の遅刻指導と月間遅刻指導で遅刻者の減少を図る。	⑥	A		
	自己指導力の育成	学校行事を通して、その場面でどのような行動が適切か、自分で考え実行する能力を身につけさせる。	⑥⑧	B		
	事故や問題行動の予防	学校活動や講演会を通して教員が積極的に働きかけ、リスク予測やリスク回避能力を身につけさせ事故や問題行動の未然防止に努める。	⑥⑧	A		
	保護者・地域・関係諸機関との連携	家庭との連絡を密にして、校則等の遵守に協力を依頼する。	⑥⑦	A		
		地域住民や関係諸機関と連携して校外における生徒のマナー指導を行う。	⑥⑦	B		
地域の青少年相談員や幼小中学校・警察との情報連携を図る。		⑦	B			
進路指導	希望進路の実現	3年間の段階的な進路指導体制を構築し、生徒一人一人が目標とする進路実現を目指す。	④⑤	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 進路に関する急激な変化の中で、進路指導に有効な情報を正確に迅速に提供する。 教員・生徒・保護者のニーズを把握し、要望に応えられるよう資料の充実を図る。 進路希望のミスマッチを防げるよう、各年次へ科目選択や進路情報など段階に応じた適切な時期に提供する。 コロナ禍で行動が制限されていたため、生徒はボランティア活動、インターンシップ、オープンキャンパス等の校外での活動を活発に行うことができなかった。それに変わるオンラインなどの情報も把握する必要がある。
		きめ細かな個別面談や三者面談が行えるように、進路に関する資料や情報等を提供する。	④	B		
		ハローワーク等の外部機関と連携しながら、就職希望者に適切な情報を提供し、就職内定率100%を目指す。	④	A		
	進学指導体制の強化	一般選抜および学校推薦型選抜(指定校制・公募制)・総合型選抜等生徒の個性に合う選抜方法を研究し、生徒が志望する大学等に合格できるよう支援する。	①⑤	B		
		年次の段階に相応しい課外や模試等のあり方を議論し、効果的に実践することで生徒の学力向上を図る。	⑤	B		
		朝学習や週末課題を通し自主的な学習習慣を促し、毎日の学習記録では自ら日常生活を見直すことで家庭学習の定着を図る。	②	B		
	キャリア教育の充実	「産業社会と人間」の授業を核として横断的・総合的な学習を行うことで、キャリア教育の充実を図る。	⑥⑧	A		
ボランティア活動・インターンシップ等に積極的に参加することにより、適切な職業観や労働観を育む。		⑥⑧	B			

※評価基準 A：大変よくできた。 B：よくできた。 C：やや不十分。 D：不十分

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	関連項目	評 価		次年度(学期)への 主な課題
特別活動	ホームルーム活動の活発化と、豊かな心の育成	ロングホームルーム・「道徳」・総合的な探究の時間等を中心に、学校生活のあらゆる場面で心の教育が行えるように努める。	③⑥	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍での厳しい状況に対応できるよう、余裕を持って学校行事を運営する。 ・キャリアパスポートを作成し、生徒自身の変容や成長を促す。 ・ボランティアやチャリティ活動を通して、地域社会に貢献できるような行動を推進していく。 ・生徒会を中心とした生徒の自治活動を促しつつ、各種行事の内容や形式を再確認する。
		キャリアパスポートを作成させ、自身の変容や成長を生徒自身が自己評価できるようにする。	⑩	C		
		ボランティア活動への積極的な参加を促し、自ら地域やグローバル社会に貢献する姿勢を身に付けさせる。	⑥	B		
	部活動の活性化	新入生を対象に部活動紹介や体験入部を実施することにより、人間性を高めるうえで重要な役割を果たす部活動への参加意欲を高めるとともに、その活性化を図る。	⑨	B		
	学校行事の充実	生徒会を中心とした自治活動を支援し、学校行事における生徒の主体的な取り組みを促す。	⑧	B		
各年次やホームルーム・地域・PTAとの連携を図りながら学校行事を充実させ、よりよい学校生活が過ごせるよう努力する。		⑧⑩	B			
保健	生徒の生活習慣と心身の健康の確立を図る。	健康診断や身体測定の結果を有効に活用し、自ら健康管理に対する意識を高めさせる。	⑦	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症予防を第一に配慮した上で行事・各種健診を実施する。 ・検温・手指消毒・換気等の習慣化を指導する。 ・清掃用具の定期的な交換をできるようにする。 ・ゴミの分別を徹底し、衛生的な教育環境を整える。
		感染症(新型コロナウイルス感染症)の予防について検温や消毒等自己管理できるようにし、生徒の体調の把握に努める。	⑦	A		
	安全教育の実施	緊急時の避難訓練を含む防災訓練を実施し、防災意識の涵養に努める。	⑦	A		
	教育環境の整備	生徒の衛生的な教育環境を確保するとともに、清掃活動の指導を徹底する。	⑦	A		
	思春期の心の育成と豊かな感性を養う。	生徒が日常的にカウンセリングを気軽に受けられる体制をつくる。	⑦	B		
より豊かな成長の確立を目指し、自らの心と体に主体的に向き合えるよう講演会等で情報を提供する。		⑦	B			
渉外	PTA活動の助成 保護者と教職員が協力して、生徒の健全育成を図り、会員相互の研修や親睦を深める。	会員保護者に学校からの情報を積極的に発信する。(ホームページ・まこcomiメール)その他会議の出欠集計にICT利用、リモート会議を積極的に取り入れる。	⑦	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者への連絡体制はICT導入とアナログ的紙ベースへのハイブリット方式からICT利用の一本化を実施する。 ・次年度役員調査について工夫が必要。3者面談を利用して依頼を試みる。 ・同窓会100周年記念事業の成功と組織体制の確立に協力する。
		会員にとって有益事業を企画・立案・実施に協力して調整を図る。(全体PTA事業・年次PTA事業の開催)	⑦	B		
		単位PTAとしての参加(県・県南・関東・全国)を活性化し、他校との情報交換から本校事業の見直し、生徒への還元を図る。	⑦	B		
	同窓会活動の助成 同窓会活動が本校発展に寄与できるよう連携を図り、協力する。	同窓生の人的財産を有効活用し、生徒へ還元する事業に協力する。	⑦	B		
創立100周年事業の成功に向けて、PTA・学校との協力体制の推進および準備委員会設立に向け協力する。		⑦				
図書館	生徒・教職員の図書館利用を活性化させる。	新刊や話題書を常にスピーディーに提供できる体制作りを行い、社会の流れに対応した図書館を目指す。	⑦⑧	A	B	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のもと、授業での活用は難しいが、自学自習の場として生徒が安心して利用できる快適な空間作りさらにさらに尽力していきたい。 ・昨年度に引き続き、文化祭や校外研修会が中止になり、図書委員会としての活動がほとんどできなかったのは非常に残念であった。新たな環境を見据えて、今までは異なる活動の形を模索していく必要がある。 ・視聴覚室の機材整備が入念に行われ、さらなる有効活用が期待される。
		大学入試や就職試験等生徒の進路実現に繋がる蔵書の充実を図り、情報の収集や知識の向上を促していく。	④⑤	A		
	本校の学習活動・教育活動を援助する。	図書室を利用した授業を積極的に取り入れると同時に、自学自習の場としての環境も充実させる。	①②	B		
		長期休業時においても生徒の図書館利用を促していく。	⑤⑦	B		
		DVDなど視聴覚教材を取り入れた授業をスムーズに行える環境を作り、授業以外での活用も提案していく。	⑤	A		
図書委員会、視聴覚委員会活動の強化を図る。	委員としての役割を十分に認識させ、年次を越えて協力しあえるよう指導する。また、学校行事や研修会などへの積極的な参加を促していく。	⑩	B			
※評価基準 A：大変よくできた。 B：よくできた。 C：やや不十分。 D：不十分						

評価項目	具 体 的 目 標	具 体 的 方 策	関連項目	評 価		次年度(学期)への 主な課題
教育相談部	心の問題を抱えている生徒の早期発見と適切な対応	担任や年次と常に情報を共有しながら、必要があれば支援体制を整え、外部機関との連携をはかる。	⑦	A	A	カウンセリング業務に係る項目に関しては概ね良好であった。今後コロナ禍におけるカウンセリングの有効な活用法を構築していく必要がある。カウンセリング後のコンサルテーションの時間確保、緊急対応への備えの必要性を鑑み、カウンセラーの派遣回数、派遣時間数増を要望したい。
		生徒が前向きに学校生活を送れるような環境づくりに努め、必要とされる様々な情報を提供する。	⑦	B		
	スクールカウンセリングの体制づくり	カスクールカウンセリングを通して、生徒、保護者、教員への支援に努める。	⑦	A		
		スクールカウンセリングの有効活用を促す。	⑦	B		
		スクールカウンセラーとの円滑な情報共有を図る。	⑦	B		
職員対象の研修会を企画し、スクールカウンセリングに対する知識と理解を深める。	⑦	A				
1 年次	基本的生活習慣の確立	高校生として規律ある行動をとるよう促し、身の回りの整理整頓や時間厳守など、集団の一員であることの自覚を身につける。	⑥	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導の面で、学校としてどこまで厳しく指導すべきかわかりづらい部分があった。年次の方針は必要だが、他年次と差がでてはいけない所だと思うので、学校全体で同じ指導ができるようにしたい。 ・学力が思うように上がらなかった。スタディプログラムの動画などの活用を促進し、動画配信や学習計画表の作成などの取り組みなど行ったが、その他活用の場面があまり見られなかったので、学習計画を見直したい。 ・各係の仕事を明確にし、ワークシェアリングを徹底したい。
	学習習慣の定着と学力の向上	日々の授業を大切に、意欲的に学習に取り組む姿勢を育む。	①②	A		
		基礎学力の定着と応用力の向上を目指し、生徒の実態に応じた課題や課外の在り方を考え実践する。	①③⑤	B		
	個に応じた進路選択	分野別の学習内容および自分自身の適性について理解を深めさせ、総合学科の特色を生かした進路選択を提案する。	①②	B		
		進路についての情報や学習に対するアドバイスを積極的に提供し、個人の特性・希望にあった進路の方向性を見いだせるよう支援する。	②④⑤	A		
	特別活動への積極的な参加	部活動や特別活動への参加を促し、個人の能力の向上と学校の活性化につなげる。	⑧⑨	A		
HR、行事、委員会、ボランティア活動を通して心の教育を推進し、学校生活の充実を図る。		⑧⑨	B			
2 年次	基本的生活習慣の確立	高校生として規律ある行動をとるよう促し、身の回りの整理整頓や時間厳守など、集団の一員であることの自覚を身につけさせる。	⑥	B	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学習習慣の定着に加え、学力の定着を図る。 ・適切な進路選択を促す上で、安易に妥協をしない姿勢を育てる。 ・欠席等が多い生徒に対し速やかに対応し、全員がきちんと卒業できるよう支援する。
	学習習慣の定着と学力の向上	日々の授業に対し、真摯に取り組み、意欲的に学習に取り組む姿勢を育む。	①②	A		
		基礎学力の定着と応用力の向上を目指し、生徒の実態に応じた課題や課外の在り方を考え実践する。	③⑤	B		
	個に応じた進路選択	自分自身の適性について理解を深めさせ、分野に応じた進路選択を提案する。	②④	A		
		進路についての情報や学習に対するアドバイスを積極的に提供し、個人の適性・希望にあった進路の方向性を見いだせるよう支援する。	④⑤	B		
	特別活動への積極的な参加	部活動や特別活動への参加を通じ、個人の能力の向上と学校の活性化につなげる。	⑨	A		
HR、行事、委員会、ボランティア活動を通して心の教育を推進し、学校生活の充実を図る。		⑧⑨	A			
3 年次	基本的生活習慣の確立	日々の生徒指導を徹底し、高校生として規律ある言動や行動を促すとともに、問題の早期発見・対応を図る。	⑥	A	A	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍に対応した教育計画の策定、学びの保障を継続する。 ・規則や周囲への影響を考慮責任ある行動がとれる生徒の育成を継続する。 ・学習指導におけるICT活用推進 ・3年次の時点で習得を目指す学力に照らした評価により、意欲向上を図る ・課外授業強化等により一般入試に対応できる学力を養う。
	学習習慣の定着と学力の向上	日々の学習の記録を見える化することで学習習慣の定着を図るとともに、進路実現に向けて意欲的に学習に取り組む態度を養う。	①②	A		
		基礎学力の定着と応用力の向上を目指し、生徒の実態に応じた課題や課外を検討し実践する。	③⑤	A		
	個に応じた進路の実現	探究活動やさまざまな進路活動を通して、自らの進路を主体的に選択する姿勢を育み、個に応じた進路の方向性を明確にする。	④	A		
		積極的に面談を実施するとともに、進路についての情報を積極的に提供し、個人の希望・特性にあった進路実現を支援する。	④⑤	A		
	特別活動への積極的な参加	部活動やボランティア活動などへの積極的な参加を促し、個人の能力向上と学校の活性化につなげる。	⑨	A		
学校行事に積極的に参加し、最高年次としてリーダーシップを発揮できるよう、指導する。		⑧⑨	B			
※評価基準 A：大変よくできた。 B：よくできた。 C：やや不十分。 D：不十分						